

第2章 深谷市ってどんなまち？

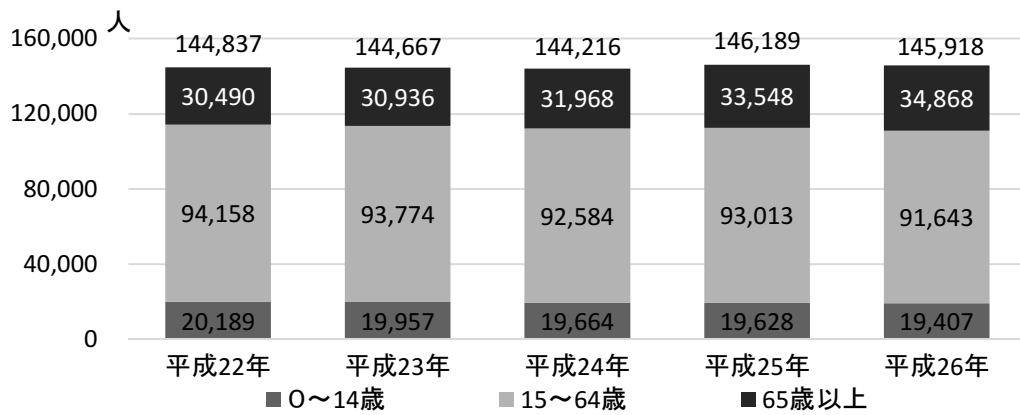


1. 人口や世帯などの状況

(1) 人口の状況

総人口は近年ほぼ横ばいで推移しており、平成26年時点で145,918人となっています。また、その内訳をみていくと、0～14歳と15～64歳は減少しているのに対し、65歳以上の高齢者は増加が続いており、少子高齢化の進行がうかがえます。

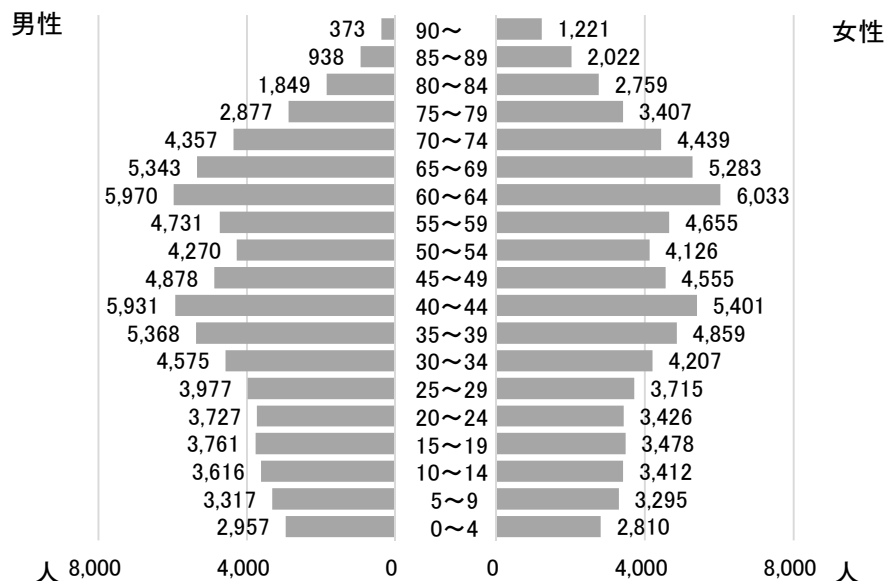
人口3区分の推移



資料：住民基本台帳（各年3月末日現在）

人口ピラミッドをみると、40～44歳の子育て世代と、60～64歳の高齢期の前の世代が特に多くなっています。

平成26年 人口ピラミッド

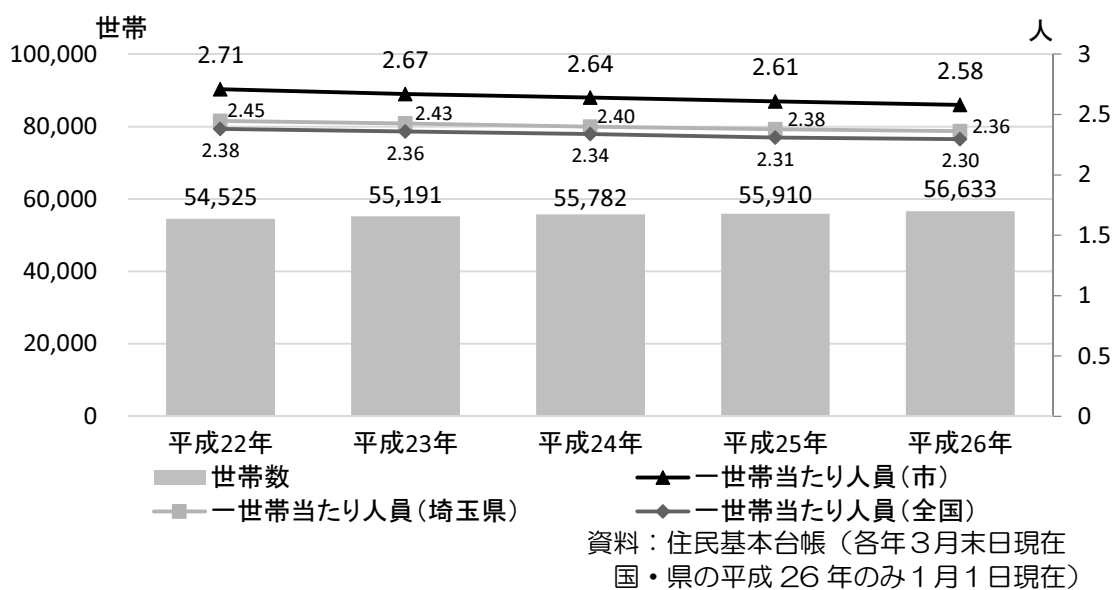


資料：住民基本台帳（平成26年3月末日現在）

(2) 世帯の状況

世帯数は微増傾向にあり、平成26年時点で56,633世帯となっています。また、一世帯当たり人員は減少傾向となっていますが、全国や埼玉県よりは多く推移しており、平成26年時点で2.58人となっています。

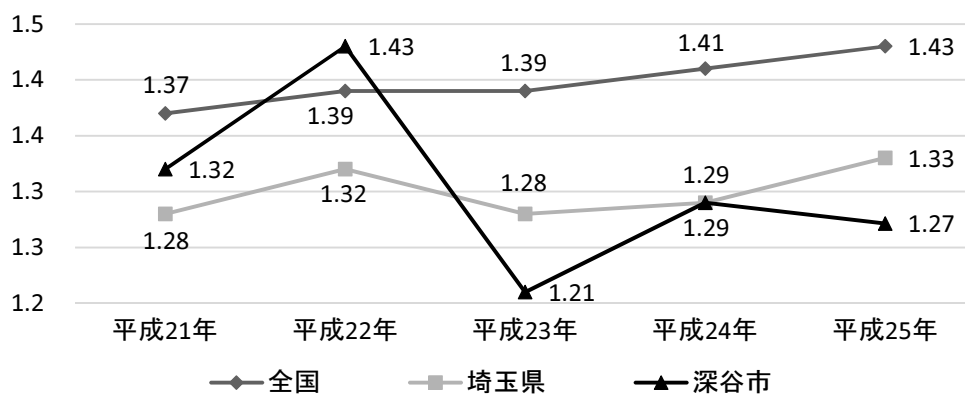
世帯数の推移



(3) 合計特殊出生率

合計特殊出生率*は、増減を繰り返しながら推移しており、平成25年時点で1.27と、全国や埼玉県と比較してやや低くなっています。

合計特殊出生率の推移

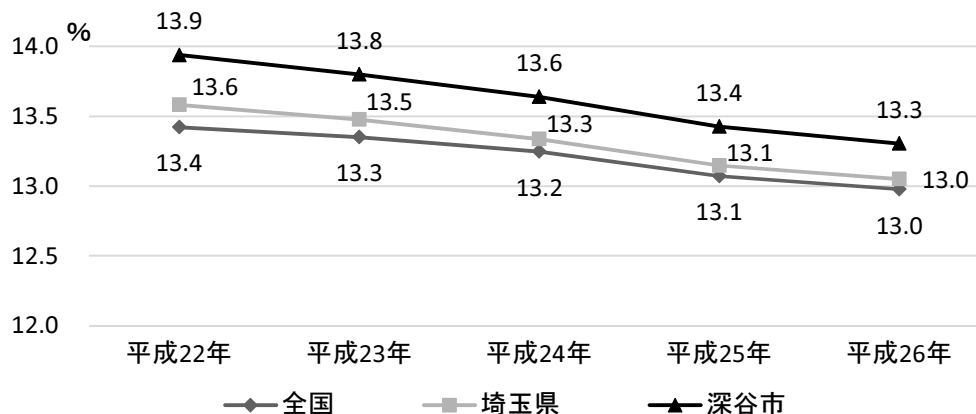


資料：埼玉県

(4) 少子高齢化進行の状況

年少人口比率（0～14歳が全人口に占める割合）は、減少傾向となっておりますが、全国や埼玉県よりは高く推移しており、平成26年時点で13.3%となっております。

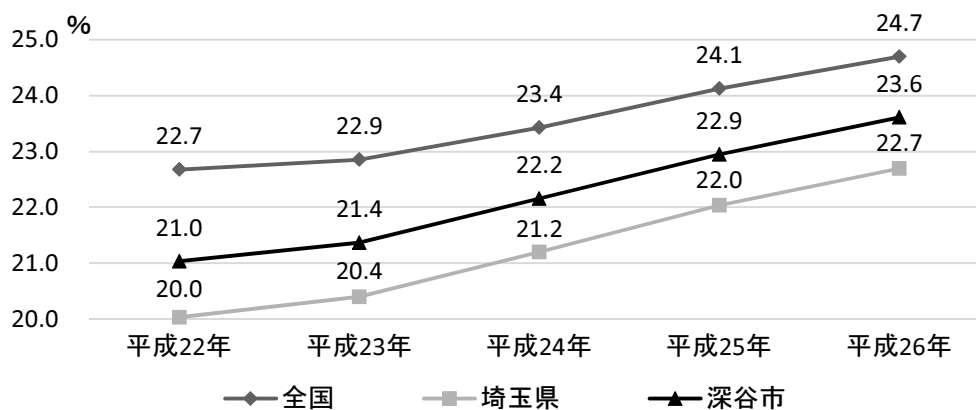
年少人口比率の推移



資料：住民基本台帳（平成26年のみ1月1日現在
平成25年までは各年3月末日現在）

高齢化率（65歳以上が全人口に占める割合）は、増加傾向となっており、全国よりは低く、埼玉県よりは高く推移しており、平成26年時点で23.6%となっております。

高齢化率の推移



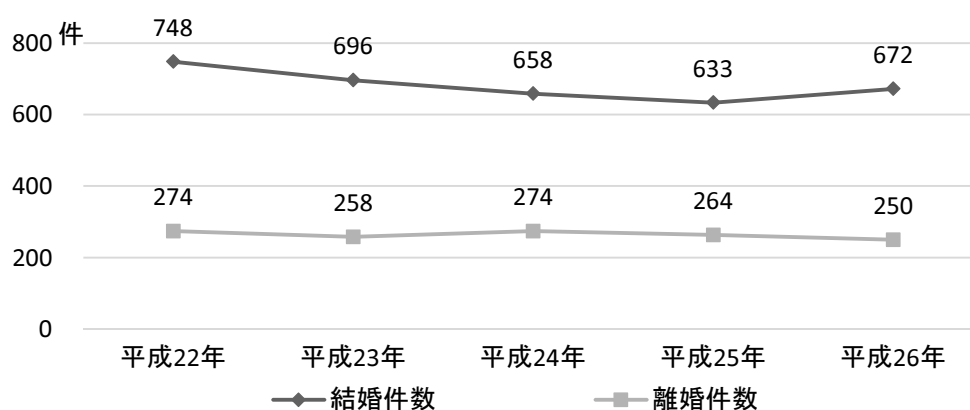
資料：住民基本台帳（平成26年のみ1月1日現在
平成25年までは各年3月末日現在）

2. 支援を必要とする人の状況

(1) 子ども・子育てに関する状況

結婚件数の推移をみると、平成25年までは微減傾向でしたが、平成26年にはやや微増となっています。また、離婚件数の推移をみると、増減を繰り返しながら平成22年に比べ平成26年ではやや減少しています。

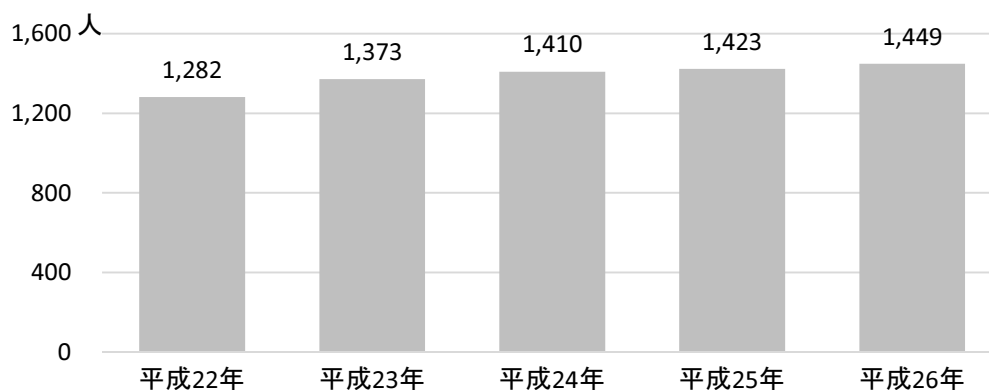
結婚・離婚件数の推移



資料：市民課（各年3月末日現在）

ひとり親家庭等医療費支給事業登録者数の推移をみると、近年微増傾向にあり、平成26年時点で1,449人となっています。

ひとり親家庭等医療費支給事業登録者数の推移



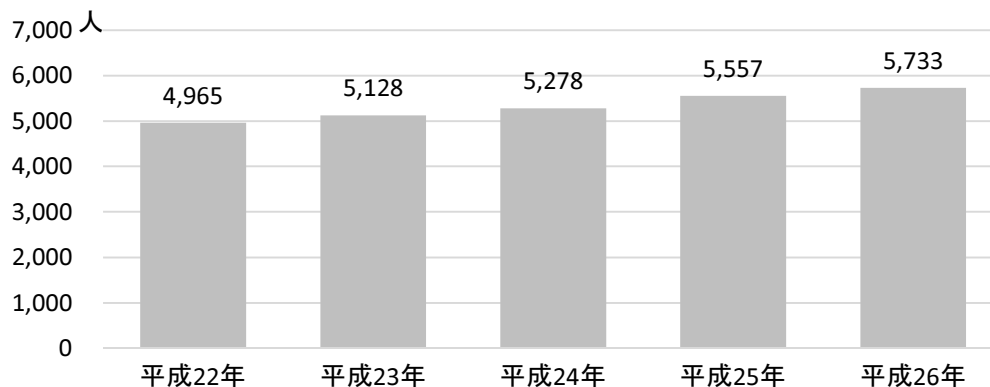
資料：子ども青少年課（各年3月末日現在）

※養育者家庭*も含む

(2) 高齢者に関する状況

要介護（要支援）認定者数の推移をみると、微増傾向にあり、平成 26 年時点で 5,733 人となっています。

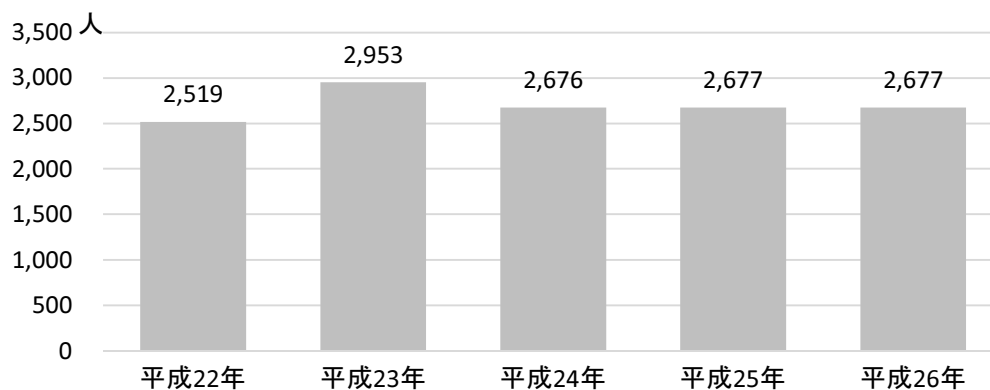
要介護(要支援)認定者数の推移



資料：大里広域市町村圏組合（各年3月末日現在）
※介護保険事業状況報告の数を計上

認知症高齢者数の推移をみると、平成 23 年は概ね 3,000 人となっていますが、平成 24 年以降は 2,600 人台で推移しています。

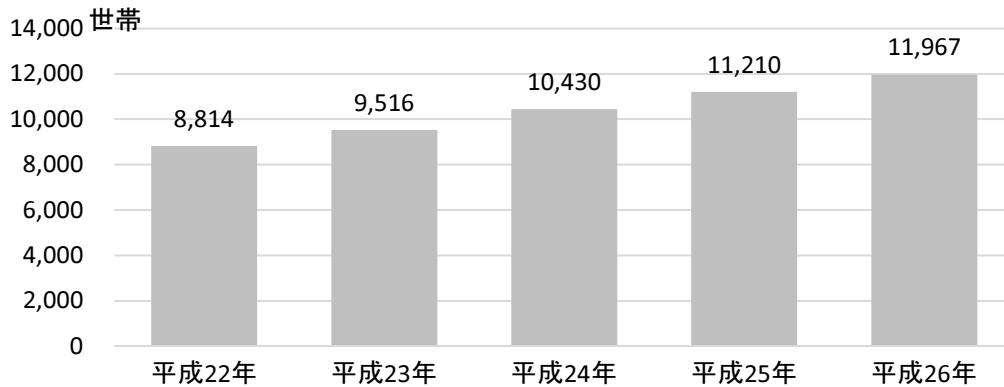
認知症高齢者数の推移



資料：大里広域市町村圏組合（各年3月末日現在）
※介護認定審査会で「日常生活自立度Ⅱ以上」の判定を受けた方を計上

高齢者のみ世帯数の推移をみると、毎年 700 世帯以上ずつ増加しており、平成 26 年には 11,967 世帯となっています。

高齢者のみ世帯数の推移

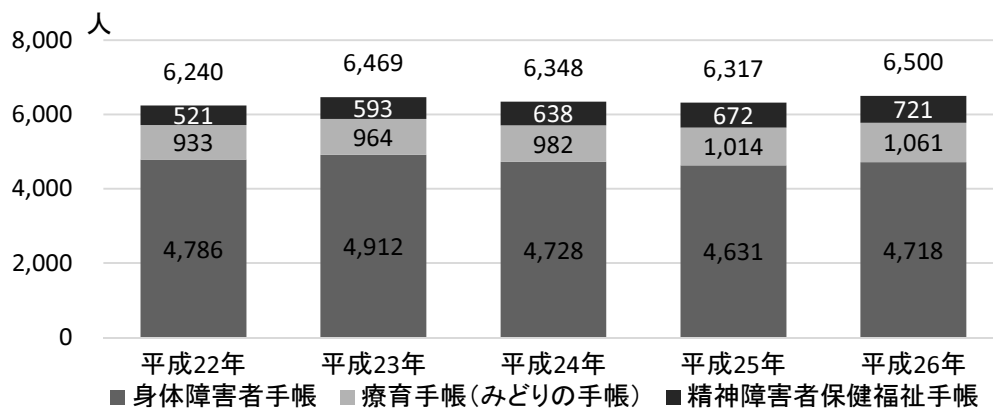


資料：住民基本台帳（各年3月末日現在）

（3）障害者に関する状況

障害者手帳所持者数の推移をみると、増減を繰り返しながらも微増傾向にあります。特に、精神障害者保健福祉手帳が過去5年間での伸び率が高く、概ね 1.4 倍となっています。

障害者手帳所持者数の推移

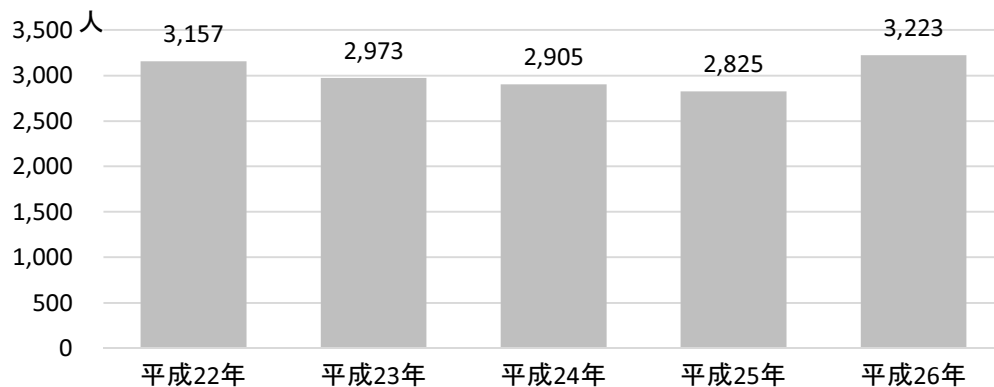


資料：障害福祉課（各年3月末日現在）

(4) 災害時に支援が必要な方の状況

災害時等要援護者名簿登録者数の推移をみると、平成26年では、3,223人となっています。

災害時等要援護者名簿登録者数の推移

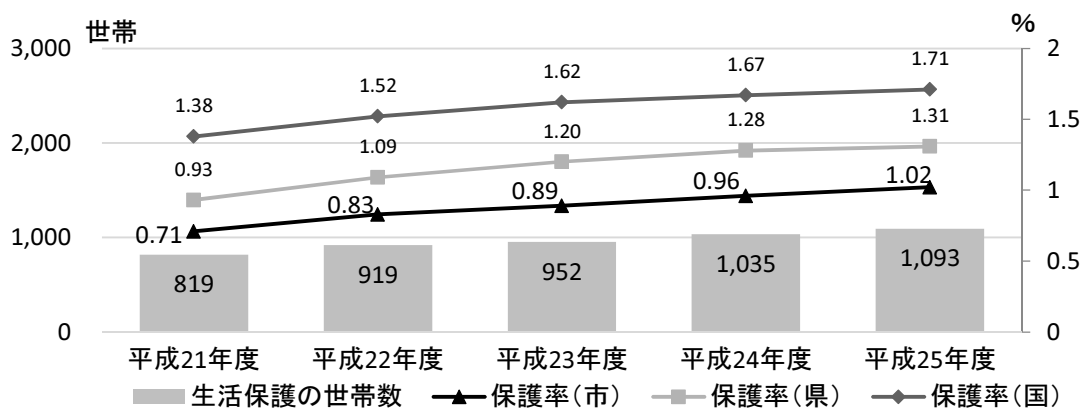


資料：福祉政策課（各年3月末日現在）

(5) 生活保護の状況

生活保護の世帯数と保護率をみると、増加傾向にあり、平成25年度時点で世帯数は1,093世帯、保護率は1.02%となっています。

生活保護の世帯数・保護率の推移

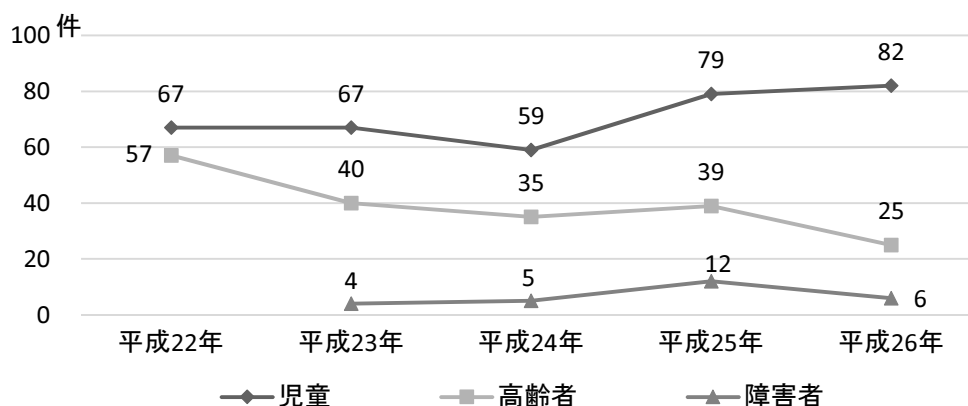


資料：埼玉県

(6) 虐待に関する状況

虐待相談件数の推移をみると、児童は微増傾向にあり、平成26年時点では82件となっていますが、高齢者では微減傾向にあり、平成26年時点で25件となっています。また、障害者では年によりばらつきがある状況で、平成26年時点で6件となっています。

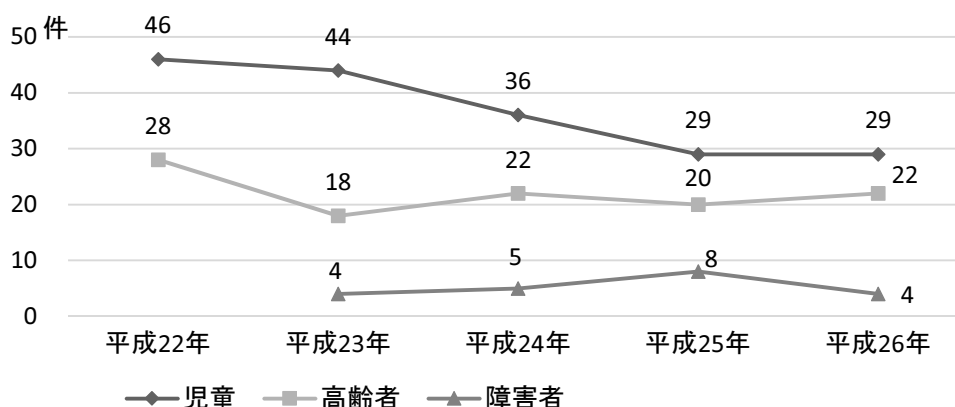
虐待相談件数の推移



資料：こども青少年課、長寿福祉課、障害福祉課（各年3月末日現在）
 ※障害者の件数は、平成23年より統計をとっている

虐待件数の推移をみると、児童は減少傾向にあり、平成26年時点で29件となっています。また、高齢者・障害者については増減を繰り返しており、平成26年時点で高齢者が22件、障害者が4件となっています。

虐待件数の推移



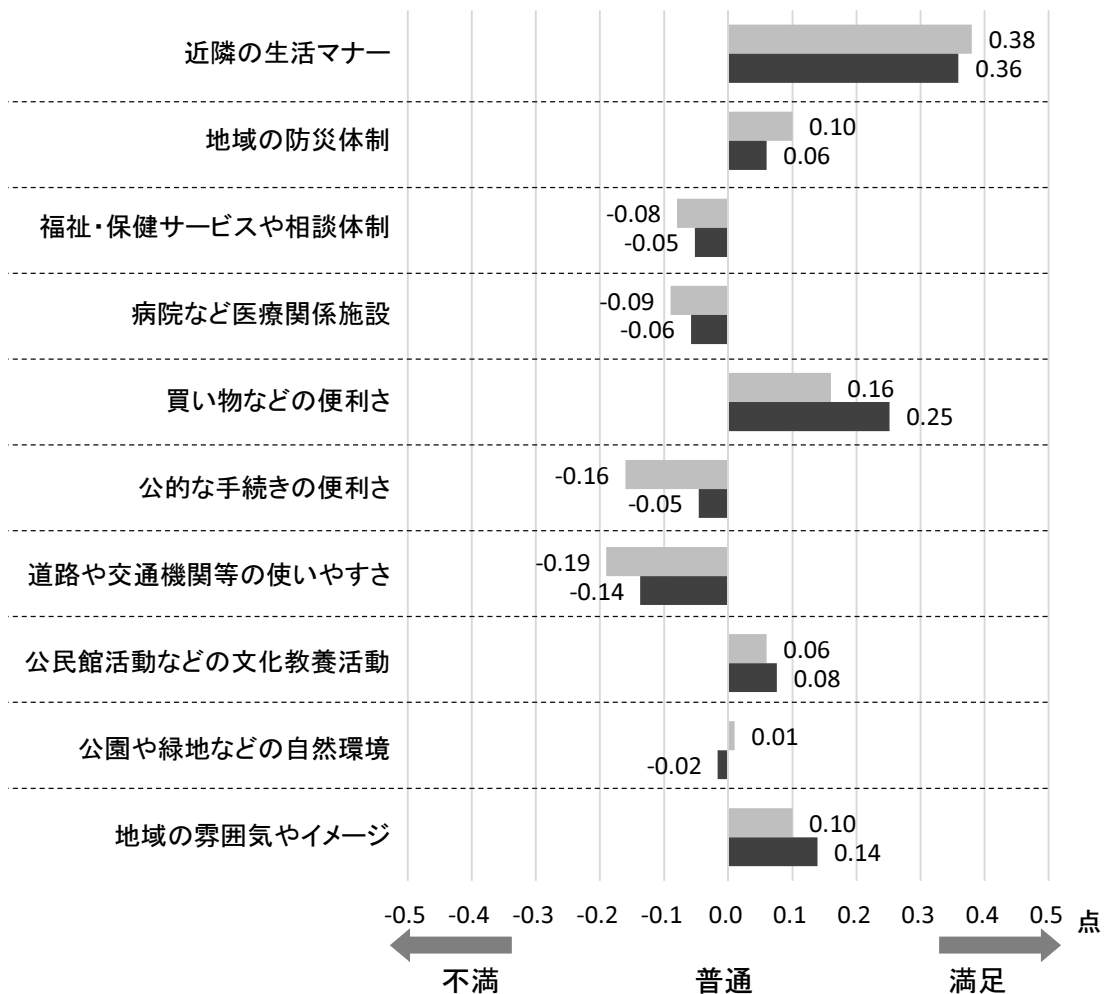
資料：こども青少年課、長寿福祉課、障害福祉課（各年3月末日現在）
 ※児童分は、福祉行政報告より、虐待で計上した件数を計上
 ※障害者の件数は、平成23年より統計をとっている

3. 地域の状況

(1) 地区の暮らしやすさ

現在住んでいる地区の暮らしやすさについて、アンケート結果を点数化してみると、多くの項目で前回調査よりも数値が「普通」や「満足」に増加しており、特に、買い物などの便利さや公的な手続きの便利さはいずれも約0.1点増加しています。

現在住んでいる地区の暮らしやすさ



■ 前回調査(回答者数1,279) ■ 今回調査(回答者数1,079)
 資料：市民アンケート（前回調査 平成21年2月実施
 今回調査 平成26年2月実施）

■ 満足度の点数化の方法

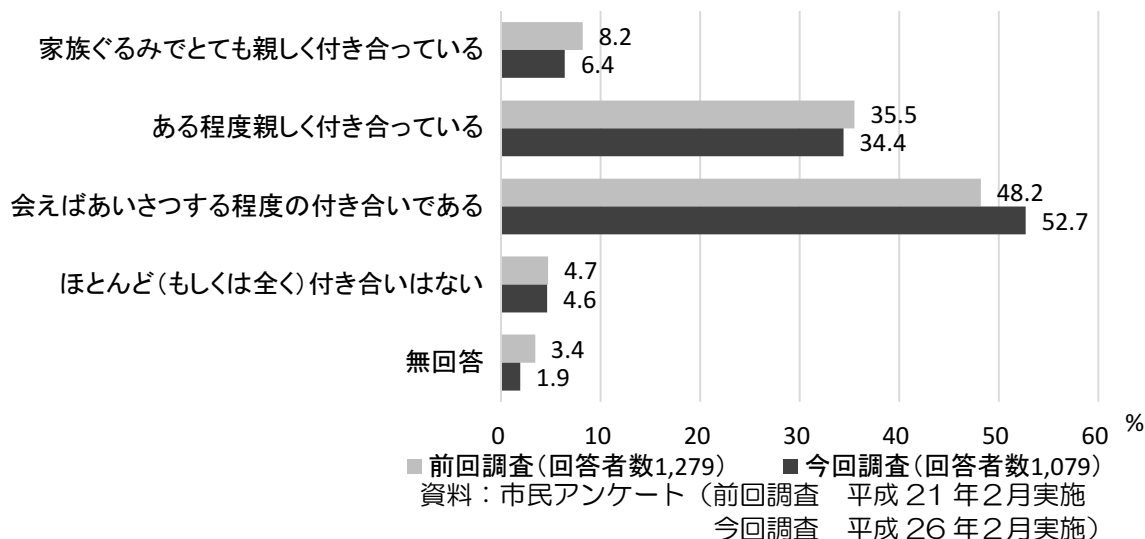
$$\text{点} = \frac{\text{「満足」} \times 2 \text{点} + \text{「まあ満足」} \times 1 \text{点} + \text{「普通」} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」} \times -1 \text{点} + \text{「不満」} \times -2 \text{点}}{\text{回答者総数} - \text{「わからない」} - \text{無回答者数}}$$

※最大2点満点(全員が「満足」の場合)、最低-2点(全員が「不満」の場合)

(2) 近所付き合いの状況

近所の人との付き合いについては、前回調査に比べ、「家族ぐるみでとても親しく付き合っている」や「ある程度親しく付き合っている」といった親しい付き合いがわずかに減り、「会えばあいさつする程度の付き合いである」が増加しています。

ふだん近所の人との程度の付き合いをされていますか

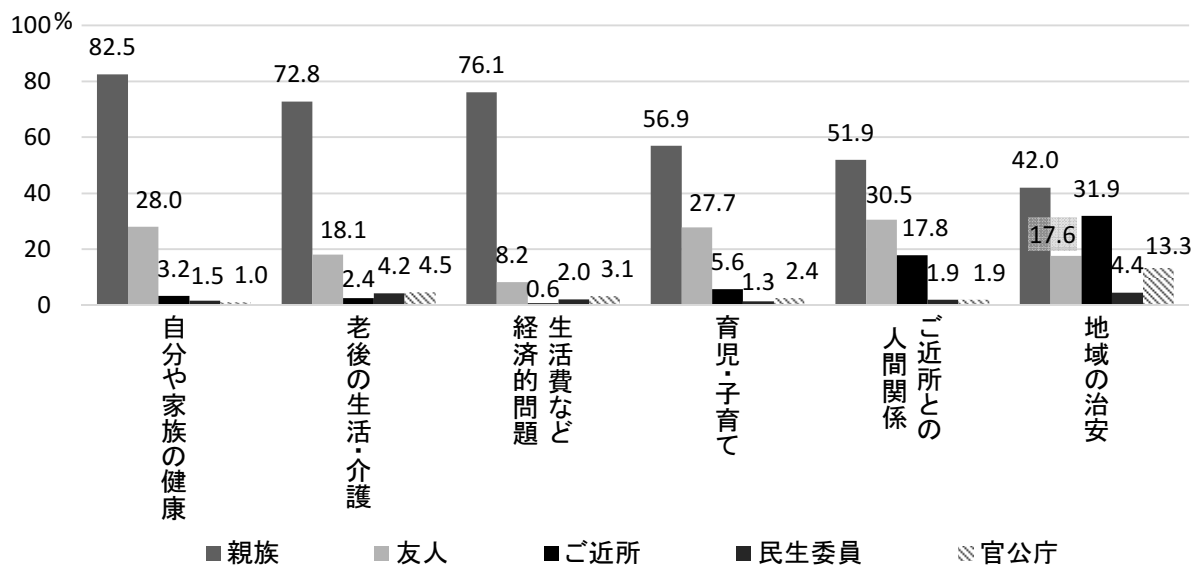


(3) 不安や悩みの相談場所

不安や悩みの相談場所については、いずれの項目も「親族」が最も多くなっていますが、地域の治安やご近所との人間関係では、「ご近所」も多くなっています。

各項目に関する不安や悩みをどなたに、もしくはどこに相談していますか

回答者数：1,079

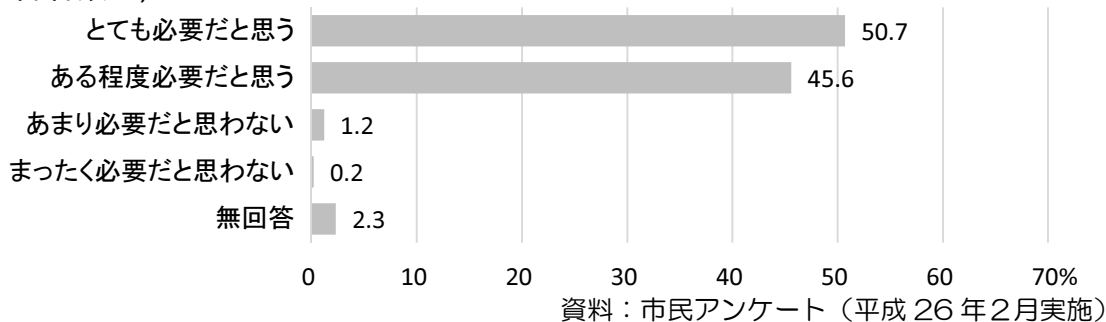


資料：市民アンケート（平成 26 年 2 月実施）

(4) 地域福祉の必要性・関心

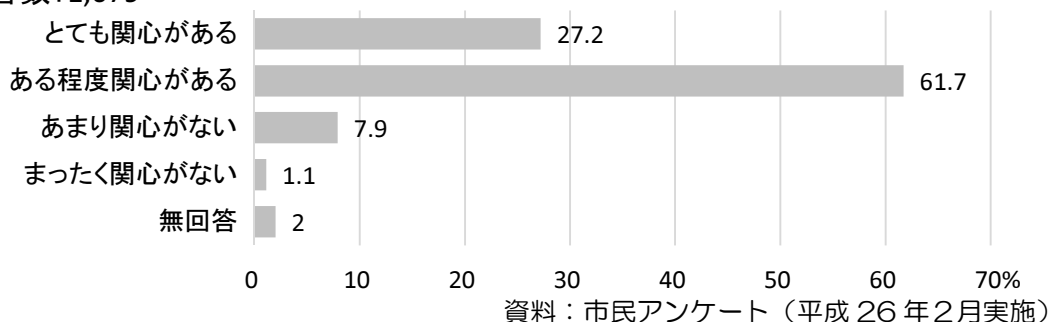
福祉課題に対する地域の支え合い、助け合いの必要性については、「とても必要だと思う」が約5割、「ある程度必要だと思う」が4割半ばと大半を占めています。

福祉課題に対する地域の支え合い、助け合いの必要性について 回答者数:1,079



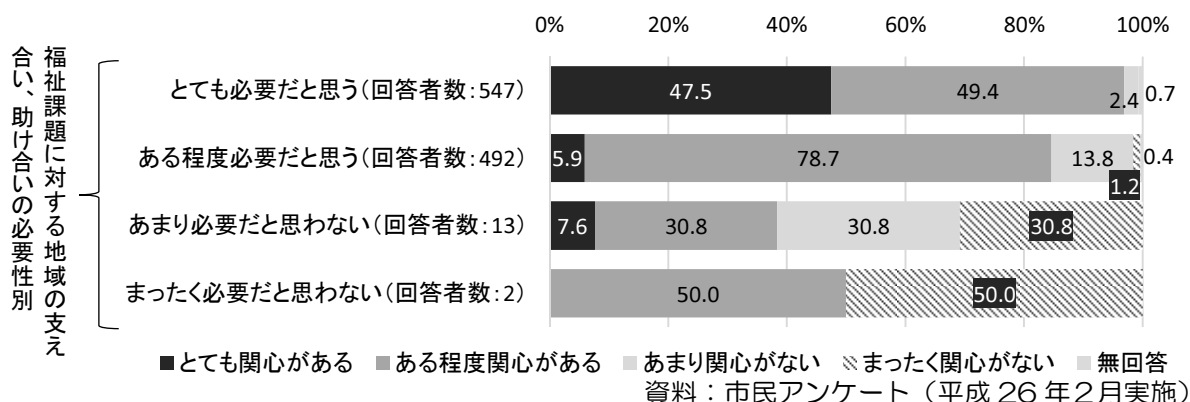
一方、地域の福祉課題への関心については、「とても関心がある」は3割弱とやや少なく、「ある程度関心がある」が約6割と多くなっています。

地域の福祉課題への関心について 回答者数:1,079



上記2点を細かく見ていくと、福祉課題に対する地域の支え合い、助け合いが「とても必要だと思う」と回答した人では、地域の福祉課題について「とても関心がある」割合が5割弱と多くなっています。

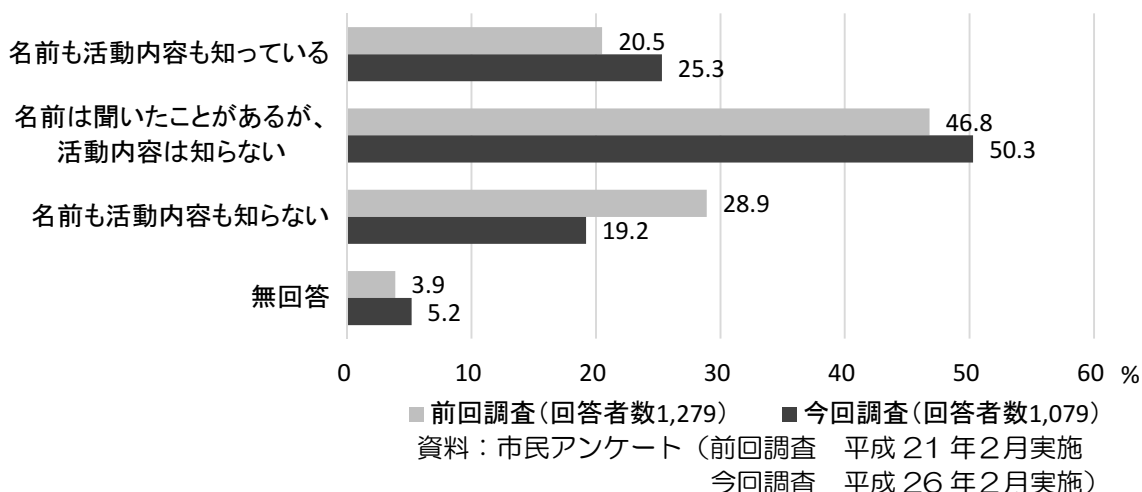
地域の福祉課題への関心について



(5) 地域で活動する団体等の認知度

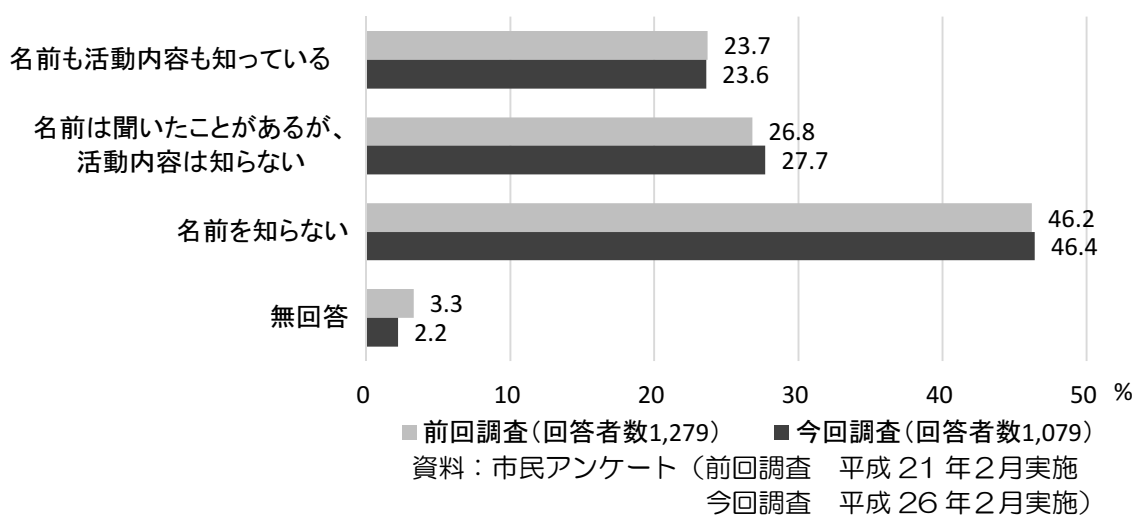
深谷市社会福祉協議会の認知度については、前回調査に比べ上昇しており、「名前も活動内容も知っている」と「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」が増加し、「名前も活動内容も知らない」が約1割減少しています。

深谷市社会福祉協議会を知っていますか



住んでいる地区を担当する民生委員児童委員の認知度については、前回調査とほぼ変わらず、4割以上が「名前を知らない」となっています。

住んでいる地区を担当する民生委員児童委員を知っていますか

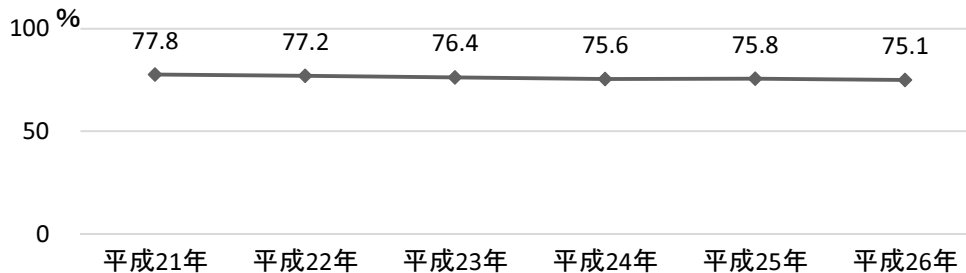


4. 地域活動などの状況

(1) 地域を核とした活動について

自治会加入率は微減傾向にあり、平成26年時点では75.1%となっています。

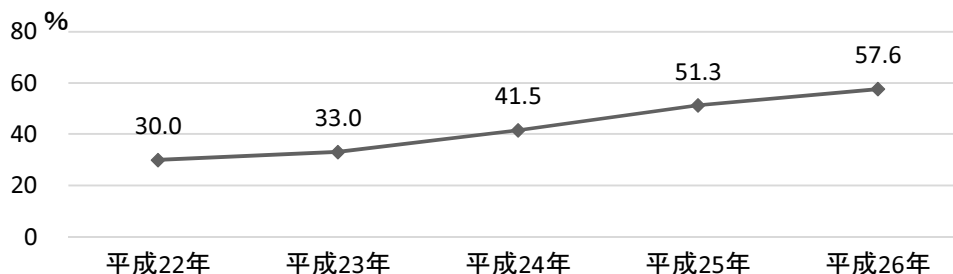
自治会加入率の推移



資料：自治振興課（各年4月1日現在）

自主防災組織*の結成率は増加傾向にあり、平成26年時点では57.6%と、半数を超えています。

自主防災組織の結成率の推移



資料：総務防災課（各年3月末日現在）

ふれあい・いきいきサロン*数は微増傾向にあり、平成26年時点で88件となっています。

ふれあい・いきいきサロン数の推移



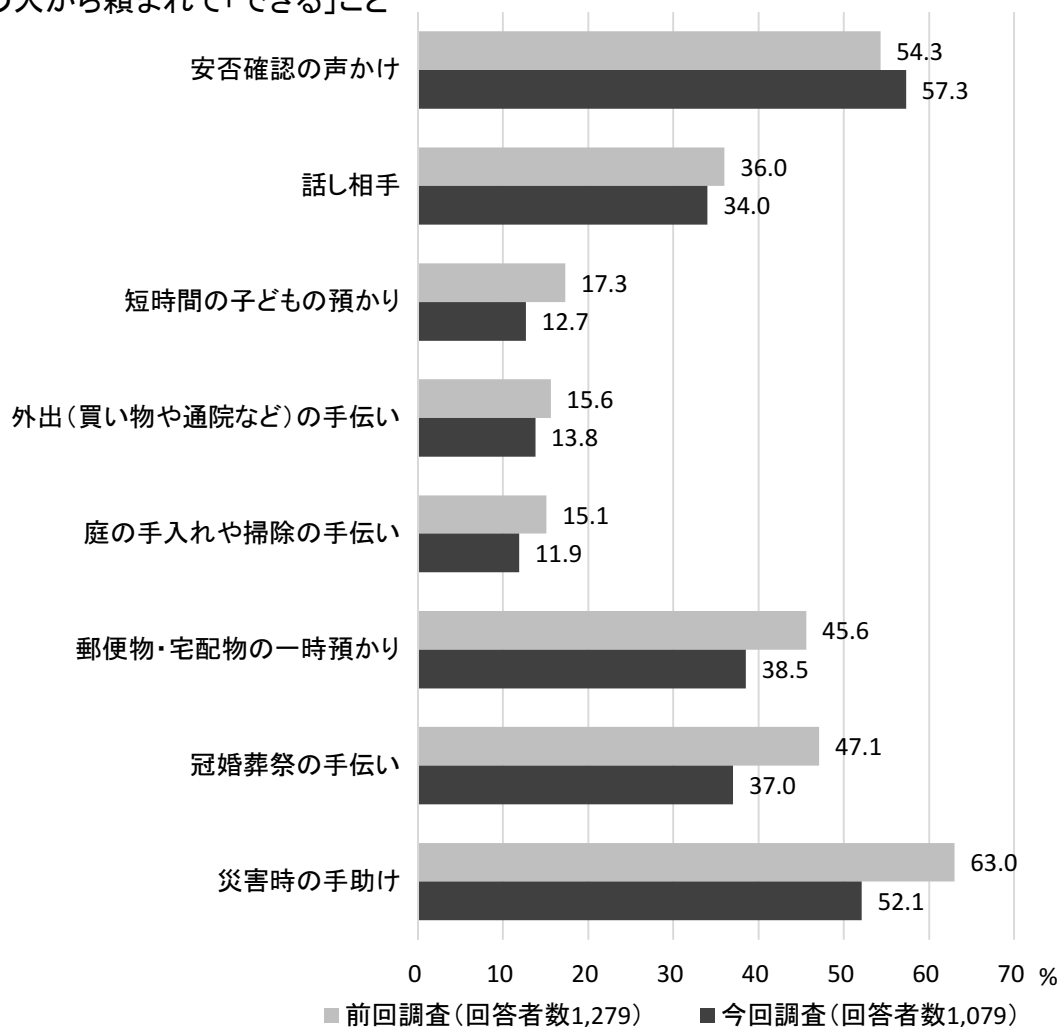
資料：社会福祉協議会（各年3月末日現在）

(2) 隣近所での助け合いについて

近所の人から頼まれて「できる」ことは、前回調査に比べて「安否確認の声かけ」のみ微増しており、それ以外の項目はすべて減少しています。

また、今回調査で最も多いのは、「安否確認の声かけ」が6割弱、次いで、「災害時の手助け」が約5割、「郵便物・宅配物の一時預かり」や「冠婚葬祭の手伝い」、「話し相手」が3割台と続いています。

近所の人から頼まれて「できる」こと

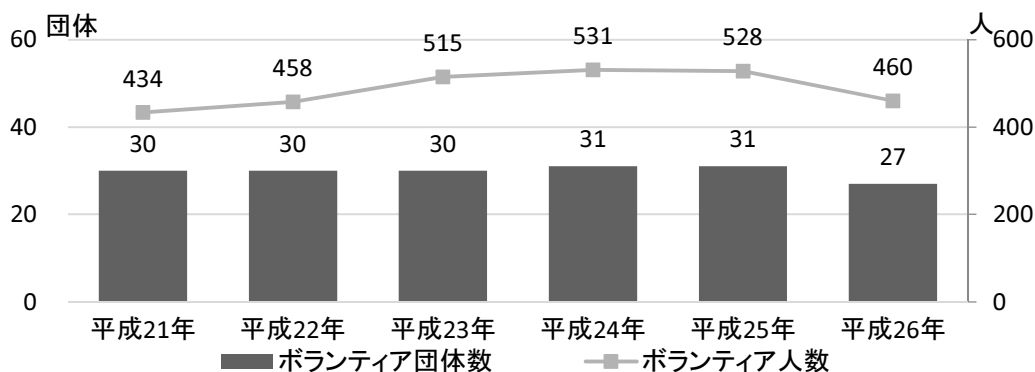


資料：市民アンケート（前回調査 平成 21 年 2 月実施
今回調査 平成 26 年 2 月実施）

(3) ボランティアについて

ボランティアセンター*登録者数及び団体数は、平成24年をピークに平成26年ではやや減少傾向となっています。

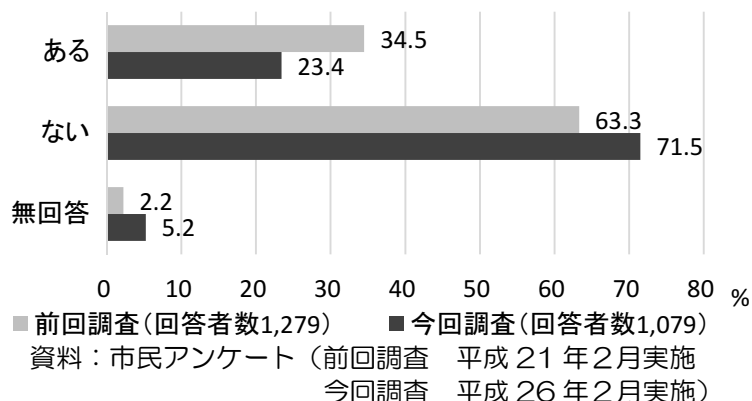
ボランティアセンター登録者数及び団体数の推移



資料：社会福祉協議会（各年4月1日現在）

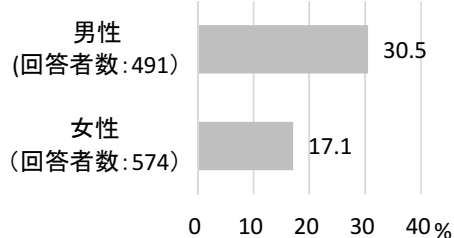
ここ5年間の地域活動やボランティア活動の経験が「ある」の割合は、前回調査の3割半ばに比べ、今回調査では2割強と減少しています。

ここ5年間に地域活動やボランティア活動をしたことがありますか

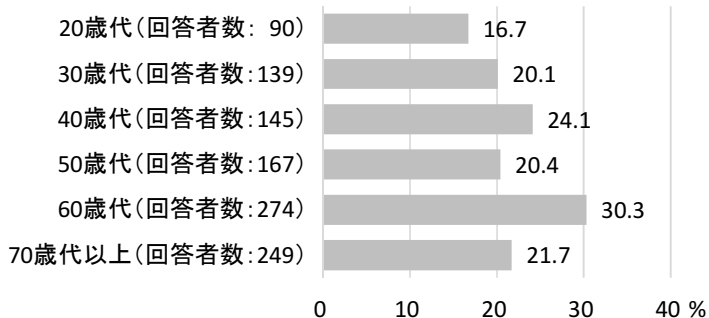


全体を男女別にみると、ここ5年間の地域活動やボランティア活動の経験が「ある」の割合は、女性の2割弱に比べ、男性では約3割と多くなっています。また、同様に、年代別にみると「ある」の割合は、60歳代が約3割と他の年代に比べ多くなっています。

「ある」の割合(男女別)



「ある」の割合(年代別)



資料：市民アンケート（平成26年2月実施）

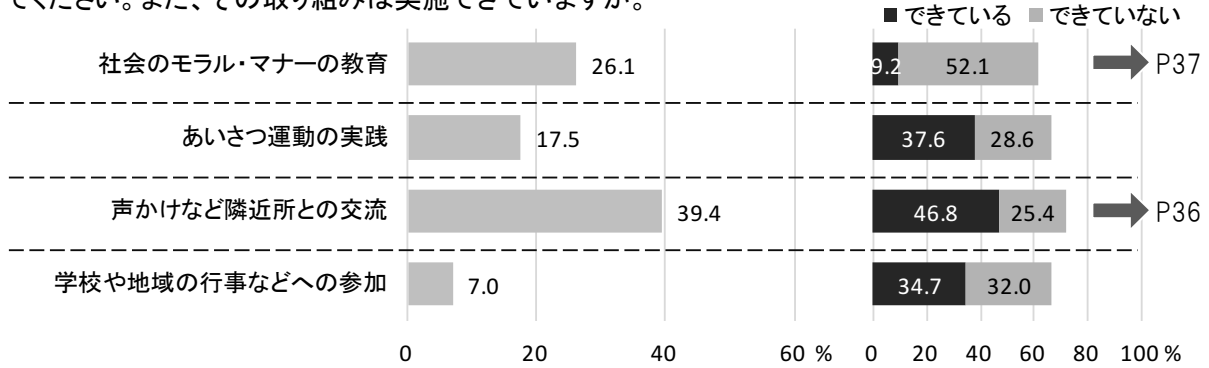
※性・年代のいずれかのみ回答者がいるため、男女別と年代別の合計は異なります。

5. 第1次計画の進捗評価

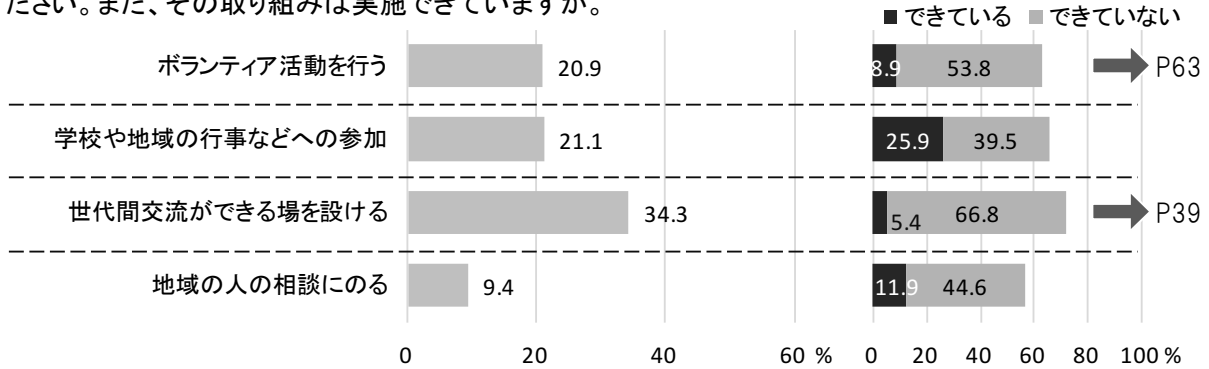
資料：市民アンケート（平成26年2月実施）

目標1 ふれあい、支え合いの地域をつくる

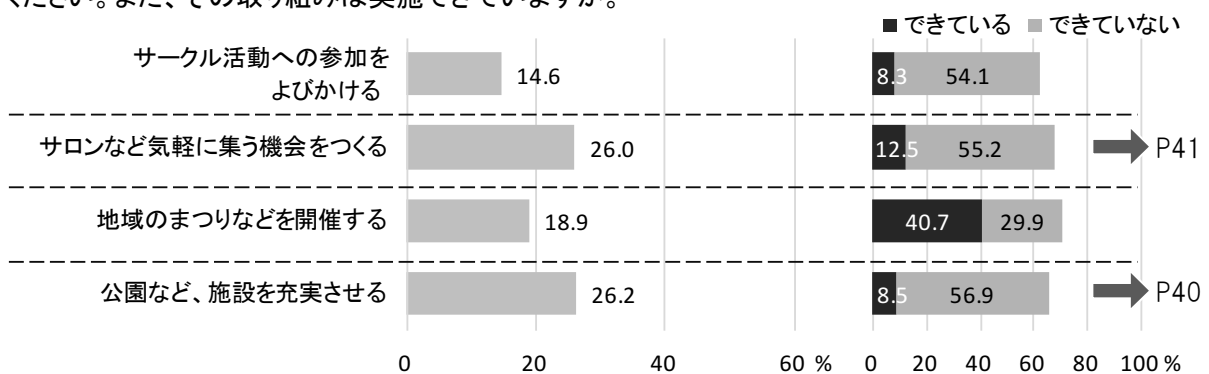
1-(1) 気軽にあいさつや声かけをするまちをつくるために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。



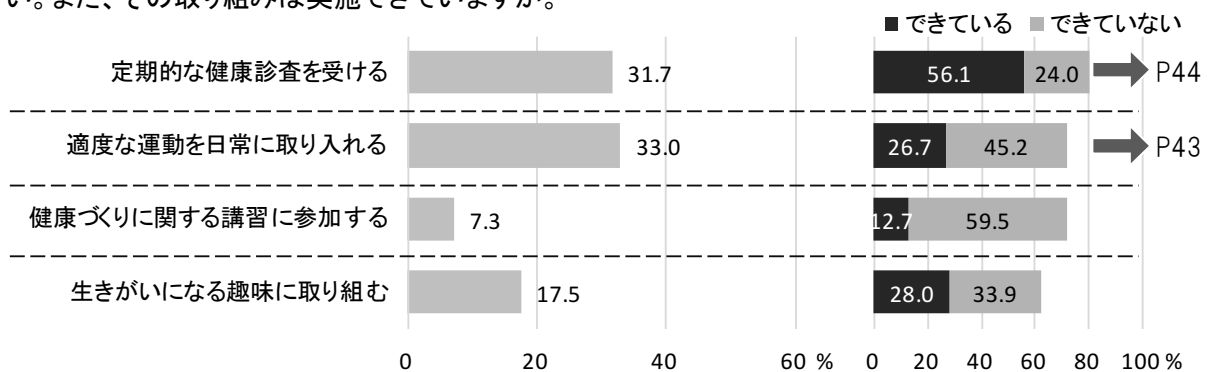
1-(2) ふれあいや助け合いの活動を促進するために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。



1-(3) 気軽に交流できる居場所を地域につくるために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。

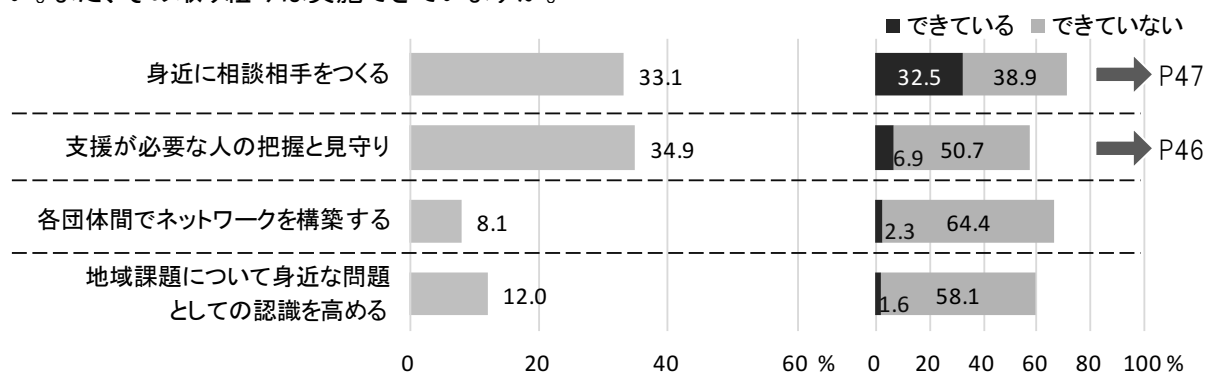


1-(4) 健康づくりにより地域を明るくするために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。

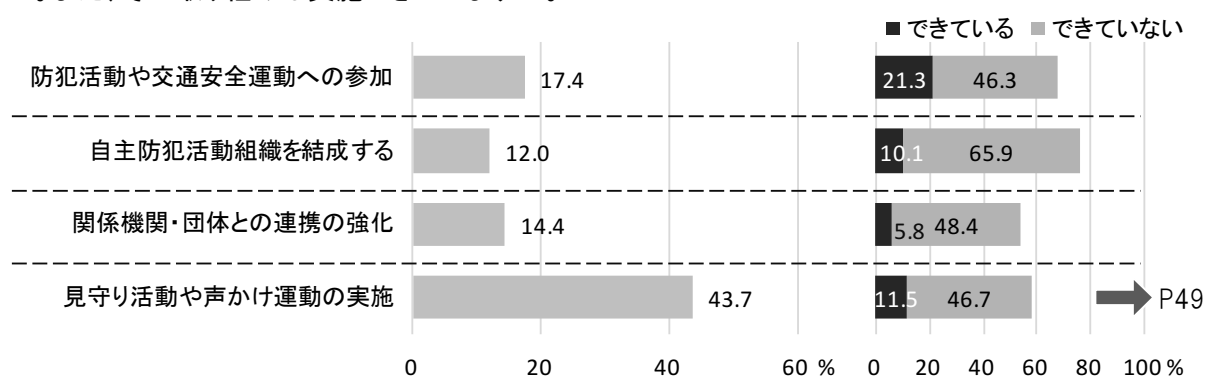


目標2 SOSに応えるしくみをつくる

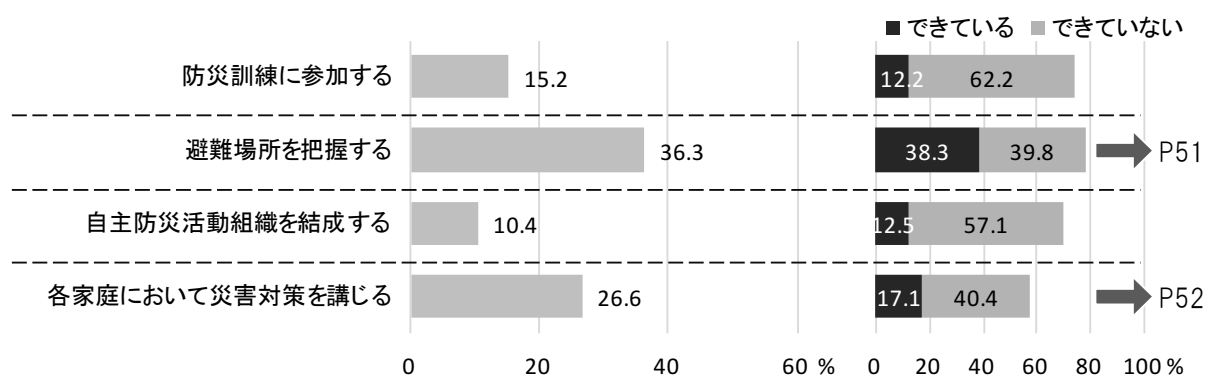
2-(1) ヘルプが出しやすいしくみをつくるために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。



2-(2) 地域ぐるみで防犯活動を強化するために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。

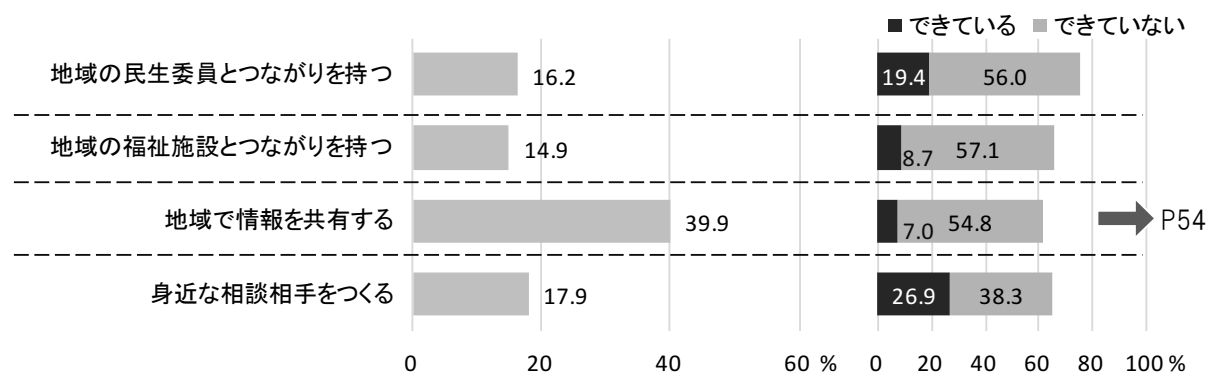


2-(3) 災害に対して安心できる地域をつくるために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。

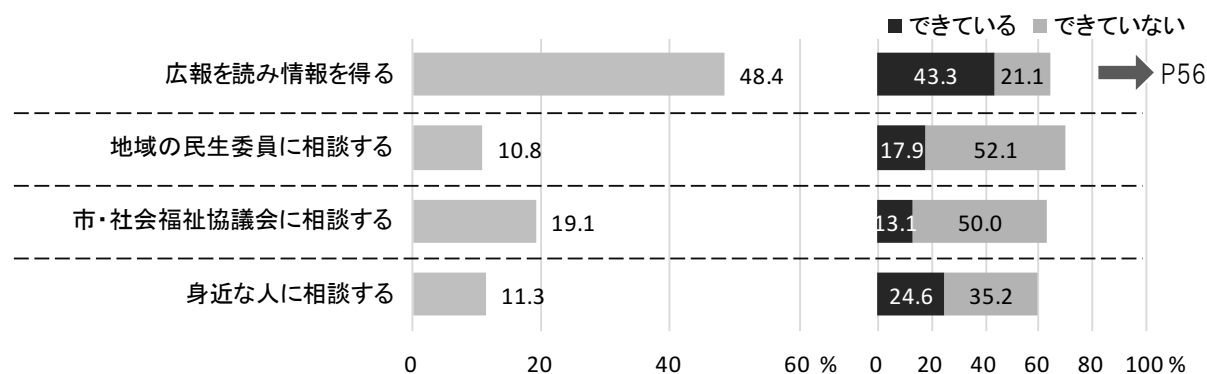


目標3 サービスが利用しやすい環境をつくる

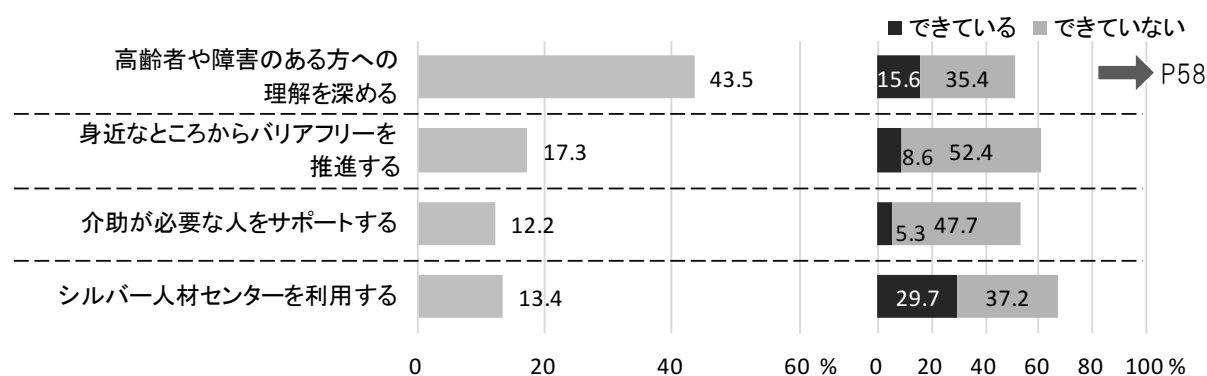
3-(1) 情報が得やすく、相談しやすい体制をつくるために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。



3-(2) 誰もが適切なサービスを受けるために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。

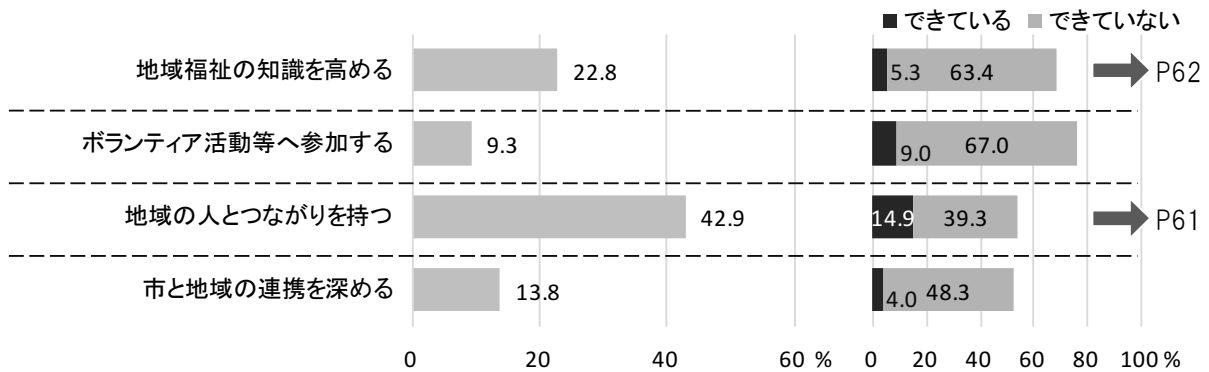


3-(3) 社会参加しやすい環境を支援するために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。

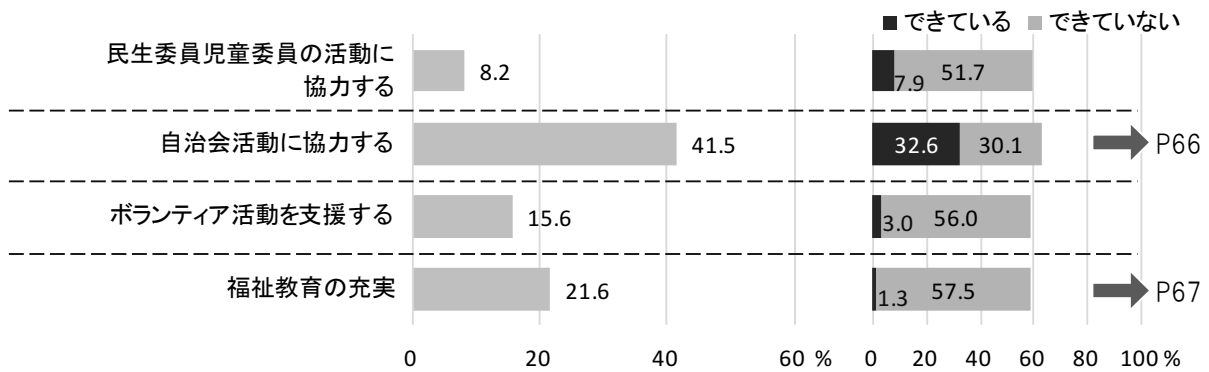


目標4 地域福祉を推進するしくみをつくる

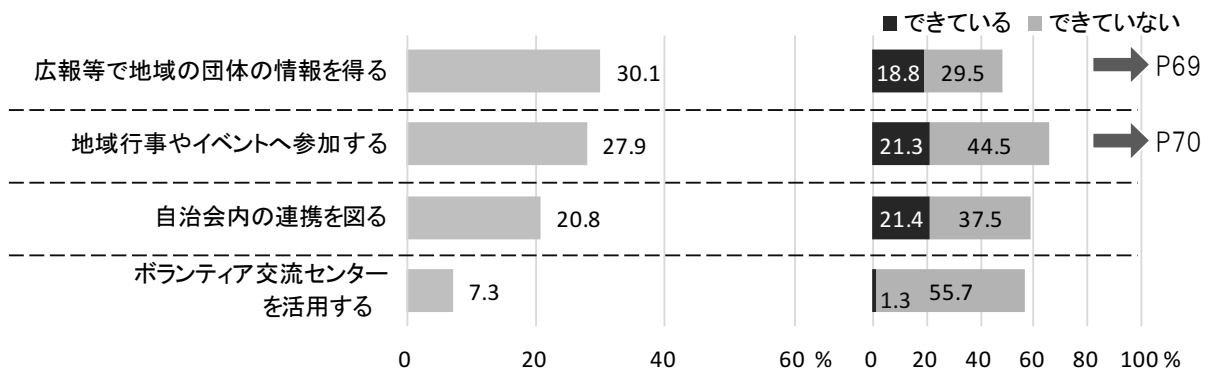
4-(1) 支え合う地域福祉を広めるために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。



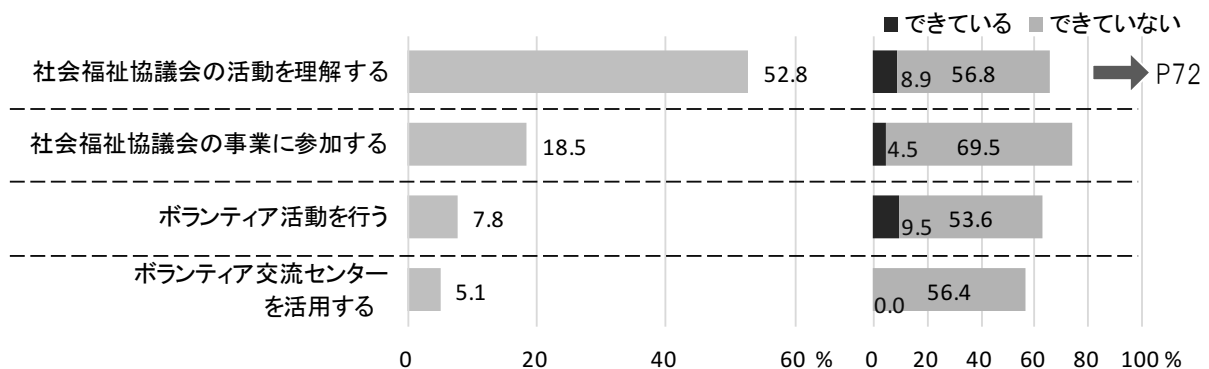
4-(2) 地域を支える人材を育てるために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。



4-(3) さまざまな団体の交流や連携を図るしくみをつくるために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。



4-(4) 社会福祉協議会の活性化を図るために積極的に取り組む必要があると思うことを選んでください。また、その取り組みは実施できていますか。



6. 主な地域課題



1. ～5. の現状をまとめた主な地域課題は下記のとおりです。

(1) 支援を必要とする市民の増加

子育て家庭に関しては、婚姻件数は減少し、ひとり親家庭も微増しています。

高齢者に関しては、人口はほぼ横ばい傾向にある中、65歳以上の高齢者は増加が続いており、高齢者のみ世帯数、要介護（要支援）認定者数も増加しています。

障害者に関しては、障害者手帳所持者数は微増傾向にあり、特に精神障害者保健福祉手帳所持者の伸び率が高くなっています。

以上のように、地域で生活していく上で支援を必要とする方が近年増加傾向にあり、身近な地域での支え合いや助け合いのしくみづくりが一層必要です。

(2) 地域のふれあいや交流の希薄化

地域の福祉課題に対する地域の支え合いや助け合いについては、約9割半ばが『必要だと思う』と回答しており、地域福祉の必要性を認識している人が多くなっています。一方、近所の人との付き合いについては前回調査に比べ、親しい付き合いをしている人が減少傾向にあり、地域の中のふれあいや交流が希薄化していることから、地域のつながりを深めるような活動を促進していくことが必要です。

(3) 地域に根差した活動の充実

自主防災組織の結成率やふれあい・いきいきサロン数は増加傾向にありますが、自治会加入率は微減傾向で、平成26年時点で7割半ばとなっており、地域に根差した活動の一層の充実が必要です。また、深谷市社会福祉協議会の認知度は前回調査に比べ高くなっているものの、「名前を知らない」が深谷市社会福祉協議会については約2割、民生委員児童委員については4割半ばであることから、より一層の周知が必要です。

(4) 身近な支え合い・助け合い活動の促進

近所の人から頼まれて「できる」ことは、前回調査に比べて「安否確認の声かけ」のみ微増しており、それ以外の項目はすべて減少しています。また、ボランティアセンター登録者数及び団体数はやや減少傾向となっているほか、ここ5年間の地域活動やボランティア活動の経験が「ある」の割合は約2割と、前回調査に比べ減少しており、身近な支え合い・助け合い活動の促進が必要です。